

【51】平成30年度 大学院シラバス

<p>専攻分野/コース (英文名)</p>	<p>生活習慣病プロフェッショナル養成コース (A postgraduate training course of medical specialist for life style-related disease and atherosclerosis)</p>
<p>研究指導教員</p>	<p>田中 逸 加藤 智啓 高木 正之 高田 礼子 柴垣 有吾 三村 秀文 藤谷 博人 信岡 祐彦</p>
<p>研究・教育の概略</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1、動脈硬化の成因、臨床面からの把握 2、生活習慣病の統計解析 3、腎病変、血管壁の病態分析 4、心臓、血管の画像診断(MRI, CT) 5、全身臓器の形態、機能診断 6、心エコー、心電図の理解 循環器内科 7、生活習慣病における生化学検査の意義付け 8、生活習慣とスポーツの関連 9、心血管病変の病理解析
<p>研究項目</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1、動脈硬化による臓器障害の臨床検査学的、病理学的診断法の研究 2、心血管における動脈硬化病変の先端画像診断 3、動脈硬化による各臓器の機能診断
<p>準備学習(予習・復習)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に参考資料を良く読んでおくこと。 ・配付資料の内容を確認しておくこと。

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(1)

講義コード	※	専攻分野	生活習慣病プロフェッショナル養成コース	
講義題目	循環器病態学(Ⅰ)		必修/選択	必修
担当教員	宮崎 秀和	担当教員連絡先	内線 3313	
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患の病態を把握する			
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して病態を理解し管理方法を検討する			
達成目標	1. 基本的な循環器疾患について病態を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の病態に基づいた管理を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	・事前に参考資料を良く読んでおくこと。 1時間 ・配付資料の内容を確認しておくこと。			
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容
				(出席◎)
1	心疾患へのアプローチの仕方①		1	循環器疾患 心電図の役割について①
2	心疾患へのアプローチの仕方②		2	循環器疾患 心電図の役割について②
3	心疾患へのアプローチの仕方③		3	心電図の装着法について ①
4	循環器疾患の症候①		4	心電図の装着法について ②
5	循環器疾患の症候②		5	モニター心電図でわかること ①
6	循環器疾患の身体所見 視診		6	モニター心電図でわかること ②
7	循環器疾患の身体所見 触診		7	徐脈性不整脈とは ①
8	循環器疾患の身体所見 聴診①		8	徐脈性不整脈とは ②
9	循環器疾患の身体所見 聴診②		9	頻脈性不整脈とは ①
10	循環器疾患の身体所見 聴診③		10	頻脈性不整脈とは ②
11	循環器疾患の身体所見 打診		11	虚血性心疾患の心電図 ①
12	循環器疾患の身体所見 まとめ		12	虚血性心疾患の心電図 ②
13	循環器疾患の間診の取り方①		13	弁膜症の心電図
14	循環器疾患の間診の取り方②		14	心筋症の心電図
15	循環器疾患の OSCE による評価		15	大動脈疾患の診断について

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(2)

講義コード	※	専攻分野	生活習慣病プロフェッショナル養成コース	
講義題目	腎疾患特論 I		必修/選択	必修
担当教員	柴垣 有吾	担当教員連絡先	80047	
単位数	1 単位(前期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	腎疾患症例の医学的、社会的、倫理的、精神的な問題への適切な対応を学ぶ			
講義計画	種々の基本的腎疾患症例への対応を種々な医療スタッフと検討し、適切な対応を討議する			
達成目標	1. 腎疾患症例の医学的、社会的、倫理的、精神的な問題を説明できる 2. リーダーシップをとって、種々の職種とこの問題を話し合い、まとめることができる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	・事前に参考資料を良く読んでおくこと。 1時間 ・配付資料の内容を確認しておくこと。			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席Ⓢ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓢ)	
1	症例の多面的な問題解決を検討する(1)	1		
2	症例の多面的な問題解決を検討する(2)	2		
3	症例の多面的な問題解決を検討する(3)	3		
4	症例の多面的な問題解決を検討する(4)	4		
5	症例の多面的な問題解決を検討する(5)	5		
6	症例の多面的な問題解決を検討する(6)	6		
7	症例の多面的な問題解決を検討する(7)	7		
8	症例の多面的な問題解決を検討する(8)	8		
9	症例の多面的な問題解決を検討する(9)	9		
10	症例の多面的な問題解決を検討する(10)	10		
11	症例の多面的な問題解決を検討する(11)	11		
12	症例の多面的な問題解決を検討する(12)	12		
13	症例の多面的な問題解決を検討する(13)	13		
14	症例の多面的な問題解決を検討する(14)	14		
15	症例の多面的な問題解決を検討する(15)	15		

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(3)

講義コード	※	専攻分野	生活習慣病プロフェッショナル養成コース
講義題目	腎疾患特論Ⅱ		必修/選択 必修
担当教員	櫻田 勉	担当教員連絡先	80047
単位数	1単位(後期1)	履修年次	1年
テーマと目的	腎疾患症例の医学的、社会的、倫理的、精神的な問題への適切な対応を学ぶ		
講義計画	種々の特別な腎疾患症例への対応を種々な医療スタッフと検討し、適切な対応を討議する		
達成目標	1. 腎疾患における医学的、社会的、倫理的、精神的な問題の枠組みを説明できる 2. これらの問題の解決のための制度と最新の対応法を説明できる		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習・時間)	・事前に参考資料を良く読んでおくこと。1時間 ・配付資料の内容を確認しておくこと。		
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容 (出席Ⓢ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓢ)
1		1	特異な症例の多面的な問題解決を検討する(1)
2		2	特異な多面的な問題解決を検討する(2)
3		3	特異な多面的な問題解決を検討する(3)
4		4	特異な多面的な問題解決を検討する(4)
5		5	特異な多面的な問題解決を検討する(5)
6		6	特異な症例の多面的な問題解決を検討する(6)
7		7	特異な症例の多面的な問題解決を検討する(7)
8		8	特異な症例の多面的な問題解決を検討する(8)
9		9	特異な症例の多面的な問題解決を検討する(9)
10		10	特異な症例の多面的な問題解決を検討する(10)
11		11	特異な症例の多面的な問題解決を検討する(11)
12		12	特異な症例の多面的な問題解決を検討する(12)
13		13	特異な症例の多面的な問題解決を検討する(13)
14		14	特異な症例の多面的な問題解決を検討する(14)
15		15	特異な症例の多面的な問題解決を検討する(15)

講義担当者承認 Ⓢ

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(4)

講義コード		専攻分野	生活習慣病プロフェッショナル養成コース	
講義題目	臨床血液生化学特論(1)		必修/選択	必修
担当教員	信岡祐彦	担当教員連絡先	内線 2512	
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	血液・凝固系検査、輸血検査法について学ぶ。			
講義計画	血液・凝固系検査と輸血に関連する検査法の意義、目的、実施上の注意点、結果の解釈、臨床応用について詳述する。			
達成目標	血液・凝固系検査、輸血検査の意義、目的、実施上の注意点、結果の解釈、臨床応用を述べることができる。			
教科書・参考書	「臨床検査法提要」金原出版、「臨床検査ガイド」文光堂			
準備学習(予習・復習・時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に参考資料を良く読んでおくこと。1時間 ・配付資料の内容を確認しておくこと。 			
成績評価法	出席と質疑応答の内容、および受講態度により総合的に評価する。			
講義内容				
前期(回)	内容	(出席Ⓜ)	後期(回)	内容 (出席Ⓜ)
1	採血法と抗凝固薬		1	血液凝固・線溶の機序と検査(1)
2	血球計数検査(1)		2	血液凝固・線溶の機序と検査(2)
3	血球計数検査(2)		3	血液凝固・線溶の機序と検査(3)
4	血液形態検査(1)		4	血液凝固・線溶検査の試材・器具
5	血液形態検査(2)		5	血液凝固・線溶検査の基礎的検査法
6	血液形態検査(3)		6	血管系および血小板機能検査(1)
7	血液形態検査(4)		7	血管系および血小板機能検査(2)
8	溶血性貧血に関する検査(1)		8	血管系および血小板機能検査(3)
9	溶血性貧血に関する検査(2)		9	血管系および血小板機能検査(4)
10	血液核医学的検査(1)		10	血管系および血小板機能検査(5)
11	血液核医学的検査(2)		11	血管系および血小板機能検査(6)
12	その他の血液関連検査		12	線溶系の検査(1)
13	輸血関連検査(1)		13	線溶系の検査(2)
14	輸血関連検査(2)		14	凝固・線溶活性の分子マーカー(1)
15	組織適合性抗原(HLA)検査		15	凝固・線溶活性の分子マーカー(2)

講義担当者承認

Ⓜ

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(5)

講義コード	※	専攻分野	生活習慣病プロフェッショナル養成コース	
講義題目	臨床代謝学特論		必修/選択	必修
担当教員	田中 逸	担当教員連絡先	内線 3149	
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	骨格筋と肝臓における糖代謝について学ぶ。			
講義計画	主要関連英文誌に掲載された糖・脂質代謝に関する原著、総説を輪読し、議論する。			
達成目標	1.糖尿病に関する最新の知識を習得する。 2.文献を基礎にした病態解明の理論の構築ができる。			
教科書・参考書	別途指示する			
準備学習(予習・復習・時間)	・事前に参考資料を良く読んでおくこと。 1時間 ・配付資料の内容を確認しておくこと。			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講義内容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	臓器別内科の最新知識(1)		1	臓器別内科の最新知識(16)
2	臓器別内科の最新知識(2)		2	臓器別内科の最新知識(17)
3	臓器別内科の最新知識(3)		3	臓器別内科の最新知識(18)
4	臓器別内科の最新知識(4)		4	臓器別内科の最新知識(19)
5	臓器別内科の最新知識(5)		5	臓器別内科の最新知識(20)
6	臓器別内科の最新知識(6)		6	臓器別内科の最新知識(21)
7	臓器別内科の最新知識(7)		7	臓器別内科の最新知識(22)
8	臓器別内科の最新知識(8)		8	臓器別内科の最新知識(23)
9	臓器別内科の最新知識(9)		9	臓器別内科の最新知識(24)
10	臓器別内科の最新知識(10)		10	臓器別内科の最新知識(25)
11	臓器別内科の最新知識(11)		11	臓器別内科の最新知識(26)
12	臓器別内科の最新知識(12)		12	臓器別内科の最新知識(27)
13	臓器別内科の最新知識(13)		13	臓器別内科の最新知識(28)
14	臓器別内科の最新知識(14)		14	臓器別内科の最新知識(29)
15	臓器別内科の最新知識(15)		15	臓器別内科の最新知識(30)

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(6)

講義コード		専攻分野	生活習慣病プロフェッショナル養成コース	
講義題目	一般臨床検査医学特論(1)		必修/選択	必修
担当教員	信岡祐彦	担当教員連絡先	内線 2512	
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	病態解析と診断に必要な一般臨床検査の基本的事項を理解する。			
講義計画	一般臨床検査について、意義、目的、実施上の注意点、結果の解釈について詳述する。			
達成目標	各一般臨床検査の意義、目的、実施上の注意点について述べるができる。 各一般臨床検査の結果の解釈と日常診療における注意点を述べるができる。			
教科書・参考書	「臨床検査法提要」金原出版、「臨床検査ガイド」文光堂			
準備学習(予習・復習・時間)	・事前に参考資料を良く読んでおくこと。 1時間 ・配付資料の内容を確認しておくこと。			
成績評価法	出席と質疑応答の内容、および受講態度により総合的に評価する。			
講義内容				
前期(回)	内 容	(出席Ⓢ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓢ)
1	尿検査(1)		1	臨床細菌検査(1)
2	尿検査(2)		2	臨床細菌検査(2)
3	尿検査(3)		3	臨床細菌検査(3)
4	糞便検査		4	臨床細菌検査(4)
5	穿刺液検査		5	抗酸菌検査(1)
6	脳脊髄液検査		6	抗酸菌検査(2)
7	精液検査		7	真菌検査
8	体液量測定		8	ウイルス感染症と検査
9	電解質・浸透圧測定(1)		9	ウイルス感染症検査法
10	電解質・浸透圧測定(2)		10	リケッチア・クラミジア感染症検査法
11	酸塩基平衡検査(1)		11	染色体検査法
12	酸塩基平衡検査(2)		12	遺伝子検査
13	輸液の基本(1)		13	病理検査(1)
14	輸液の基本(2)		14	病理検査(2)
15	輸液の基本(3)		15	病理検査(3)

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(7)

講義コード		専攻分野	生活習慣病プロフェッショナル養成コース	
講義題目	骨関節疾患の分子生物学 (I)		必修/選択	必修
担当教員	加藤 智啓	担当教員連絡先	内線 3521	
単位数	2 単位 (前期 1、後期1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	関節リウマチ・変形性関節症など骨関節疾患の病因病態の分子生物学的理解。			
講義計画	1) 関節構成成分について、生化学的・分子生物学的・細胞生物学的特性を解説する。 2) 正常および病的状態における上記成分の変化についての知見を解説する。			
達成目標	関節リウマチ・変形性関節症などの骨関節疾患の関節病態について、分子生物学的な視点から理解し概説できる。			
教科書・参考書	Orthopaedic Basic Science, 2 nd ed. Edited by Buckwalter JA, Einhorn TA, Simon SR: AAOS, 2000.			
準備学習(予習・復習・時間)	・事前に参考資料を良く読んでおくこと。 1時間 ・配付資料の内容を確認しておくこと。			
成績評価法	出席と講義内での発表また受講態度による総合評価。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席Ⓜ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓜ)
1	関節の構造		1	関節リウマチ(1)
2	骨(1)		2	関節リウマチ(2)
3	骨(2)		3	関節リウマチ(3)
4	軟骨(1)		4	変形性関節症(1)
5	軟骨(2)		5	変形性関節症(2)
6	滑膜(1)		6	変形性関節症(3)
7	滑膜(2)		7	骨粗鬆症(1)
8	関節液(1)		8	骨粗鬆症(2)
9	関節液(2)		9	骨粗鬆症(3)
10	腱と靭帯(1)		10	骨折と骨再生(1)
11	腱と靭帯(2)		11	骨折と骨再生(2)
12	骨格筋(1)		12	骨折と骨再生(3)
13	骨格筋(2)		13	遺伝性代謝疾患と骨異常(1)
14	脊椎		14	遺伝性代謝疾患と骨異常(2)
15	前期総合討論と発表		15	後期総合討論と発表

講義担当者承認 Ⓜ

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(8)

講義コード	※	専攻分野	生活習慣病プロフェッショナル養成コース		
講義題目	臨床代謝実習 I		必修/選択	必修	
担当教員	田中 逸	担当教員連絡先	内線 3149		
単位数	1単位(前期・後期)	履修年次	2年		
テーマと目的	グルコースクランプ法によるインスリン感受性の評価				
講義計画	グルコースクランプ法を理解し、糖代謝を習熟する。				
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. グルコースクランプ法を理解する。 2. クランプ法より得られたデータをもとに病態を説明できる。 				
教科書・参考書	別途指示する				
準備学習(予習・復習・時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に参考資料を良く読んでおくこと。 1時間 ・配付資料の内容を確認しておくこと。 				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓢ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓢ)
1	臨床演習(1)		1	臨床演習(1)	
2	臨床演習(1)		2	臨床演習(1)	
3	臨床演習(1)		3	臨床演習(1)	
4	臨床演習(1)		4	臨床演習(1)	
5	臨床演習(1)		5	臨床演習(1)	
6	臨床演習(1)		6	臨床演習(1)	
7	臨床演習(1)		7	臨床演習(1)	
8	臨床演習(1)		8	臨床演習(1)	
9	臨床演習(1)		9	臨床演習(1)	
10	臨床演習(1)		10	臨床演習(1)	
11	臨床演習(1)		11	臨床演習(1)	
12	臨床演習(1)		12	臨床演習(1)	
13	臨床演習(1)		13	臨床演習(1)	
14	臨床演習(1)		14	臨床演習(1)	
15	臨床演習(1)		15	臨床演習(1)	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(9)

講義コード	※	専攻分野	生活習慣病プロフェッショナル養成コース		
講義題目	腎臓病態学 I		必修/選択	必修	
担当教員	柴垣 有吾	担当教員連絡先	内線 80047		
単位数	1単位(前期 1)	履修年次	2年		
テーマと目的	症例に基づいて基本的な腎疾患の病態を理解する				
講義計画	種々の基本的な腎疾患症例を通して病態を理解し、管理方法を検討する				
達成目標	1. 基本的な腎疾患について病態を論理的に説明できる 2. 基本的な腎疾患の病態に基づいた管理を計画できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	・事前に参考資料を良く読んでおくこと。 1時間 ・配付資料の内容を確認しておくこと。				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓜ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓜ)
1	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(1)		1		
2	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(2)		2		
3	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(3)		3		
4	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(4)		4		
5	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(5)		5		
6	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(6)		6		
7	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(7)		7		
8	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(8)		8		
9	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(9)		9		
10	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(10)		10		
11	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(11)		11		
12	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(12)		12		
13	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(13)		13		
14	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(14)		14		
15	症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(15)		15		

講義担当者承認



学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(10)

講義コード	※	専攻分野	生活習慣病プロフェッショナル養成コース
講義題目	腎臓病態学Ⅱ		必修/選択 必修
担当教員	櫻田 勉	担当教員連絡先	80047
単位数	1単位(後期1)	履修年次	2年
テーマと目的	症例に基づいて特殊な腎疾患の病態を理解する		
講義計画	種々の特殊な腎疾患症例を通して病態を理解し、管理方法を検討する		
達成目標	1. 特殊な腎疾患について病態を論理的に説明できる 2. 特殊な腎疾患の病態に基づいた管理を計画できる		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習・時間)	・事前に参考資料を良く読んでおくこと。 1時間 ・配付資料の内容を確認しておくこと。		
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価		
講 義 内 容			
前期(回)	内 容	後期(回)	内 容 (出席Ⓢ)
1		1	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(1)
2		2	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(2)
3		3	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(3)
4		4	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(4)
5		5	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(5)
6		6	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(6)
7		7	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(7)
8		8	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(8)
9		9	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(9)
10		10	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(10)
11		11	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(11)
12		12	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(12)
13		13	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(13)
14		14	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(14)
15		15	特異な症例を通じて腎疾患の病態を学ぶ(15)

講義担当者承認 ⑧

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(11)

講義コード	※	専攻分野	生活習慣病プロフェッショナル養成コース	
講義題目	循環器症候学(Ⅱ)		必修/選択	必修
担当教員	原田 智雄	担当教員連絡先	内線 3313	
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患の症状を把握する			
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して症状を理解し管理方法を検討する			
達成目標	1. 基本的な循環器疾患について症候を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の症候に基づいた診断、治療を計画できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	・事前に参考資料を良く読んでおくこと。 1時間 ・配付資料の内容を確認しておくこと。			
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容
				(出席◎)
1	虚血性心疾患の症候のとりえ方①		1	循環器疾患と浮腫 ①
2	虚血性心疾患の症候のとりえ方②		2	循環器疾患と浮腫 ②
3	不整脈の症候のとりえ方①		3	循環器疾患と動悸 ①
4	不整脈の症候のとりえ方②		4	循環器疾患と動悸 ②
5	弁膜症の症候のとりえ方①		5	循環器疾患と呼吸困難 ①
6	弁膜症の症候のとりえ方②		6	循環器疾患と呼吸困難 ②
7	心筋症の症候のとりえ方①		7	循環器疾患と胸痛 ①
8	心筋症の症候のとりえ方②		8	循環器疾患と胸痛 ②
9	大動脈疾患の症候のとりえ方①		9	循環器疾患とチアノーゼ
10	大動脈疾患の症候のとりえ方②		10	循環器疾患と血圧異常 ①
11	肺循環障害の症候のとりえ方		11	循環器疾患と血圧異常 ②
12	左心不全の症候のとりえ方①		12	循環器疾患と脈拍異常 ①
13	左心不全の症候のとりえ方②		13	循環器疾患と脈拍異常 ②
14	右心不全の症候のとりえ方①		14	循環器疾患と失神 ①
15	左心不全の症候のとりえ方②		15	循環器疾患と失神 ②

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(12)

講義コード	※	専攻分野	生活習慣病プロフェッショナル養成コース	
講義題目	Interventional Radiology の基礎(Ⅱ)		必修/選択	必修
担当教員	小川 普久	担当教員連絡先	内線 3442	
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	血管系、非血管系疾患における経カテーテル的治療の理解			
講義計画	経カテーテル的治療手技、使用器具、適応条件、合併症について解説する			
達成目標	経カテーテル的治療の適応疾患、治療方法について理解し、概説できる			
教科書・参考書	Abrams's Angiography: Interventional Radiology. 2 nd ed. S.Baum & M.J.Pentecost (LWW)			
準備学習(予習・復習・時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に参考資料を良く読んでおくこと。 1時間 ・配付資料の内容を確認しておくこと。 			
成績評価法	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席Ⓜ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓜ)
1	血管内治療の IVR		1	IVR の症例提示
2	IVR の症例提示		2	IVR の症例提示
3	IVR の症例提示		3	IVR の症例提示
4	IVR の症例提示		4	IVR の症例提示
5	IVR の症例提示		5	IVR の症例提示
6	IVR の症例提示		6	救急疾患の IVR
7	IVR の症例提示		7	IVR の症例提示
8	IVR の症例提示		8	IVR の症例提示
9	IVR の症例提示		9	IVR の症例提示
10	IVR の症例提示		10	IVR の症例提示
11	非血管内治療の IVR		11	IVR の症例提示
12	IVR の症例提示		12	IVR の症例提示
13	IVR の提示提示		13	IVR の症例提示
14	IVR の症例提示		14	IVR の症例提示
15	IVR の症例提示		15	IVR の症例提示

講義担当者承認

Ⓜ

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(13)

講義コード	※	専攻分野	生活習慣病プロフェッショナル養成コース	
講義題目	発達・加齢スポーツ医学特論		必修/選択	必修
担当教員	藤谷博人	担当教員連絡先	内線 3355	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	加齢に伴う神経・筋・循環器系の生理的変化について理解する。			
講義計画	発育期、老年期における神経・筋・循環器系の生理的変化について、基本的事項を解説する。			
達成目標	1. 発育期の身体運動と生理的変化、筋力・酸素運搬系能力について説明できる。 2. 加齢に伴う神経・筋・循環器系の生理的変化を説明できる。			
教科書・参考書	1. 健康・体力のための運動生理学(石河利寛著、杏林書院、2000) 2. The Encyclopaedia of Sports Medicine VI-The Child and Adolescent Athlete (Ed, Oded Bar-Or, Blackwell Science, 1996)			
準備学習(予習・復習・時間)	・事前に参考資料を良く読んでおくこと。 1時間 ・配付資料の内容を確認しておくこと。			
成績評価法	出席と講義内発表(8割)、受講態度(2割)による総合評価。			
講義内容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	筋肉の分類と骨格筋の構造		1	骨と運動
2	筋収縮のメカニズム・エネルギー		2	寿命と運動
3	筋収縮の4つの型		3	臥床、無重力・不使用による身体的変化
4	負荷量と運動時間、筋力・筋持久力		4	年齢別体力、体力・運動負荷テスト
5	神経系概説		5	トレーニング総論
6	末梢神経系と運動		6	筋肉・呼吸循環機能のトレーニング
7	中枢神経系と運動		7	運動と器官の働きの加齢に伴う変化
8	呼吸と運動		8	加齢に伴う体力の変化
9	循環と運動(1) - 心拍出量・心拍数		9	高齢者の運動
10	循環と運動(2) - 血圧・最大酸素摂取量		10	肥満と運動
11	エネルギー代謝と運動		11	高血圧と運動
12	体温、熱産生、熱放散		12	冠動脈硬化性心疾患と運動
13	運動時の体温調節		13	糖尿病と運動
14	ホルモンと運動		14	健康・体力保持のための運動
15	消化吸収と運動		15	性、年齢別エネルギー所要量

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(14)

講義コード	※	専攻分野	生活習慣病プロフェッショナル養成コース	
講義題目	血行動態、循環力学特論		必修/選択	選択
担当教員	信岡祐彦	担当教員連絡先	内線 2512	
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	心循環系の機能と血行動態、循環力学について理解する。			
講義計画	心機能、心室-動脈連関を主体とする心循環系の機能と血行力学、循環力学について詳述する。			
達成目標	心循環力学の基本的事項を述べることができる。 心循環系の血行動態の特徴を述べることができる。			
教科書・参考書	別途指示する。			
準備学習(予習・復習・時間)	・事前に参考資料を良く読んでおくこと。1時間 ・配付資料の内容を確認しておくこと。			
成績評価法	出席と質疑応答の内容、および受講態度により総合的に評価する。			
講義内容				
前期(回)	内 容	(出席Ⓜ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓜ)
1	心筋収縮の分子機構		1	形態学的アプローチ(1)
2	Ca 動態と筋変力機序		2	形態学的アプローチ(2)
3	遊離心筋の収縮		3	形態学的アプローチ(3)
4	心筋収縮の機械的特性		4	力学的アプローチ(1)
5	心臓の収縮性		5	力学的アプローチ(2)
6	基本的な機能曲線		6	力学的アプローチ(3)
7	局所的機能		7	力学的アプローチ(4)
8	ポンプとしての心臓		8	電気生理学的アプローチ(1)
9	圧-容積関係(1)		9	電気生理学的アプローチ(2)
10	圧-容積関係(2)		10	血流計測(1)
11	大動脈コンプライアンス(1)		11	血流計測(2)
12	大動脈コンプライアンス(2)		12	脈波計測(1)
13	心室動脈連関(1)		13	脈波計測(2)
14	心室動脈連関(2)		14	心拍出量計算法(1)
15	Ea/Emax		15	心拍出量計算法(2)

講義担当者承認

Ⓜ

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(15)

講義コード	※	専攻分野	生活習慣病プロフェッショナル養成コース		
講義題目	プライマリケア診断学 I (基礎編)		必修/選択	選択	
担当教員	松田隆秀・伊野美幸	担当教員連絡先	内線 3640		
単位数	2 単位(前期 1、後期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	プライマリケアに必要な医療面接、身体所見、一般検査の意義を習得する。				
講義計画	医療面接、基本的な身体所見、一般検査について詳述する。				
達成目標	医療面接で得られた情報に加え、正確な身体所見がとれ、必要な一般検査を選択し、その検査結果を正しく評価できる。				
教科書・参考書	「総合診療」中山書店、「家庭医・プライマリケア医入門」プリメド社、 「根拠に基づく医療 Evidence-Based MEDICINE」オーシーシー(株)				
準備学習(予習・復習・時間)	・事前に参考資料を良く読んでおくこと。 1時間 ・配付資料の内容を確認しておくこと。				
成績評価法	課題に関する発表と質疑				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓞ)
1	医療面接 ①		1	身体所見 ②	
2	医療面接 ②		2	身体所見 ③	
3	医療面接 ③		3	身体所見 ④	
4	病歴のとりかた ①		4	身体所見 ⑤	
5	病歴のとりかた ②		5	一般検査 ①	
6	病歴のとりかた ③		6	一般検査 ②	
7	バイタルサイン ①		7	一般検査 ③	
8	バイタルサイン ②		8	一般検査 ④	
9	バイタルサイン ③		9	一般検査 ⑤	
10	全身状態 ①		10	心電図 ①	
11	全身状態 ②		11	心電図 ②	
12	全身状態 ③		12	症候よりみた鑑別診断 ①	
13	精神状態 ①		13	症候よりみた鑑別診断 ②	
14	精神状態 ②		14	症候よりみた鑑別診断 ③	
15	身体所見 ①		15	症候よりみた鑑別診断 ④	

講義担当者承認 ④

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(16)

講義コード	※	専攻分野	生活習慣病プロフェッショナル養成コース	
講義題目	肉眼病理学概論(I)		必修/選択	選択
担当教員	高木 正之	担当教員連絡先	内線 3140	
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	肉眼形態の採取方法の習得と疾患特異的肉眼所見の理解			
講義計画	臨床検体の取り扱い方法を示し, 正常像と病変部の鑑別方法, 全身諸臓器に発生するあらゆる疾患の肉眼像の特徴を詳述する。			
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全身諸臓器の正常肉眼像とその臓器に発生する病変の肉眼像を理解する 2. 肉眼形態から組織学的検索に有用な部分を採取する方法を習得する 			
教科書・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. Anderson's Pathology (Mosby, 2005) 2. Rosai and Ackerman's Surgical Pathology (Mosby, 2004) 			
準備学習(予習・復習・時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に参考資料を良く読んでおくこと。 1時間 ・配付資料の内容を確認しておくこと。 			
成績評価法	出席および講義内での発表や受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席Ⓢ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓢ)
1	病理診断学の歴史(1)		1	肝・胆道系の肉眼病理学(1)
2	病理診断学の歴史(2)		2	肝・胆道系の肉眼病理学(2)
3	肉眼病理学に必要な解剖学(1)		3	肝・胆道系の肉眼病理学(3)
4	肉眼形態学に必要な解剖学(2)		4	肝・胆道系の肉眼病理学(4)
5	肉眼形態学に必要な解剖学(3)		5	膵の肉眼病理学(1)
6	口腔肉眼病理学(1)		6	膵の肉眼病理学(2)
7	口腔肉眼病理学(2)		7	上気道の肉眼病理学(1)
8	上部消化管肉眼病理学(1)		8	上気道の肉眼病理学(2)
9	上部消化管肉眼病理学(2)		9	肺の肉眼病理学(1)
10	上部消化管肉眼病理学(3)		10	肺の肉眼病理学(2)
11	上部消化管肉眼病理学(4)		11	肺の肉眼病理学(3)
12	下部消化管肉眼病理学(1)		12	肺の肉眼病理学(4)
13	下部消化管肉眼病理学(2)		13	縦隔の肉眼病理学(1)
14	下部消化管肉眼病理学(3)		14	縦隔の肉眼病理学(2)
15	前期総合討論と発表		15	後期総合討論と発表

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(17)

講義コード	※	専攻分野	生活習慣病プロフェッショナル養成コース		
講義題目	画像診断 case study		必修/選択	選択	
担当教員	松岡 伸	担当教員連絡先	内線 3442		
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	様々な疾患の画像診断の基本を学ぶ				
講義計画	各週に見られた興味深い症例の画像を review する				
達成目標	画像診断の考え方を学ぶ				
教科書・参考書	Paul and Juhl's Essentials of Radiologic Imaging Lippin Cott Williams & Wilkins 1998				
準備学習(予習・復習・時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に参考資料を良く読んでおくこと。 1時間 ・配付資料の内容を確認しておくこと。 				
成績評価法	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓜ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓜ)
1	Case study 1		1	Case study 16	
2	Case study 2		2	Case study 17	
3	Case study 3		3	Case study 18	
4	Case study 4		4	Case study 19	
5	Case study 5		5	Case study 20	
6	Case study 6		6	Case study 21	
7	Case study 7		7	Case study 22	
8	Case study 8		8	Case study 23	
9	Case study 9		9	Case study 24	
10	Case study 10		10	Case study 25	
11	Case study 11		11	Case study 26	
12	Case study 12		12	Case study 27	
13	Case study 13		13	Case study 28	
14	Case study 14		14	Case study 29	
15	Case study 15		15	Case study 30	

講義担当者承認 Ⓜ

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(18)

講義コード	※	専攻分野	生活習慣病プロフェッショナル養成コース		
講義題目	産業医学(2)		必修/選択	選択	
担当教員	高田 礼子	担当教員連絡先	内線 3418		
単位数	1 単位(前期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	産業保健活動を理解する。				
講義計画	産業保健現場における健康課題の把握と対策の立案を学習する。				
達成目標	産業保健現場における健康課題の把握を説明できる。 対策の立案を説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	参考書や配布資料等の内容を確認し、知識を整理した上で、課題に関する発表準備を行うこと。 1時間				
成績評価法	出席と受講態度、発表内容から総合的に評価する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	イントロダクション		1		
2	基本知識		2		
3	基本知識		3		
4	基本知識		4		
5	基本知識		5		
6	基本知識		6		
7	応用知識		7		
8	応用知識		8		
9	応用知識		9		
10	応用知識		10		
11	応用知識		11		
12	発表		12		
13	発表		13		
14	発表		14		
15	まとめ		15		

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(19)

講義題目	循環器疾患と全身性疾患特論		必修/選択	選択	
担当教員	原 正壽	担当教員連絡先	内線 3313		
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	2年		
テーマと目的	症例に基づいて基本的な循環器疾患における画像診断の実際を把握する				
講義計画	色々な基本的な循環器疾患症例を通して、全身性心疾患を評価できるようになる				
達成目標	1. 基本的な循環器疾患を合併する全身性疾患を説明できる 2. 基本的な循環器疾患に合併する全身性疾患を鑑別でき、診断計画が可能になる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	・事前に参考資料を良く読んでおくこと。 1時間 ・配付資料の内容を確認しておくこと。				
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓜ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓜ)
1	動脈硬化とは		1	アルコールと心臓について	
2	動脈硬化と冠動脈		2	喫煙と心臓について	
3	動脈硬化と全身疾患		3	サルコイドーシスと心疾患 ①	
4	動脈硬化を予防するためには ①		4	サルコイドーシスと心疾患 ②	
5	動脈硬化を予防するためには ②		5	アミロイドーシスと心疾患 ①	
6	糖尿病と心疾患 ①		6	アミロイドーシスと心疾患 ②	
7	糖尿病と心疾患 ②		7	甲状腺機能異常と心疾患 ①	
8	膠原病と心疾患 ①		8	甲状腺機能異常と心疾患 ②	
9	膠原病と心疾患 ②		9	筋ジストロフィー症と心疾患	
10	遺伝子異常と心疾患 ①		10	抗ガン剤治療と心疾患	
11	遺伝子異常と心疾患 ②		11	ストレスと心疾患	
12	心疾患に対する遺伝子治療 ①		12	たこつぼ型心筋症とは ①	
13	心疾患に対する遺伝子治療 ②		13	たこつぼ型心筋症とは ②	
14	2次性心筋症とは ①		14	内分泌疾患と高血圧	
15	2次性心筋症とは ②		15	電解質異常と心疾患	

講義担当者承認

Ⓜ

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(20)

講義コード	※	専攻分野	生活習慣病プロフェッショナル養成コース	
講義題目	尿中バイオマーカー特論		必修/選択	選択
担当教員	池森 敦子	担当教員連絡先	80047	
単位数	1単位(前期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	尿中バイオマーカーの臨床的理解を深める			
講義計画	講義と症例検討を行う			
達成目標	1. 尿中バイオマーカーの意義を理解する 2. 各腎臓疾患において、尿中バイオマーカーにより病態をどこまで理解できるか、その有用性と限界を知る			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	・事前に参考資料を良く読んでおくこと。 1時間 ・配付資料の内容を確認しておくこと。			
成績評価法	出席とレポート			
講義内容				
通年(回)	内 容 (出席Ⓞ)	通年(回)	内 容 (出席Ⓞ)	
1	バイオマーカー概論1	1		
2	バイオマーカー概論2	2		
3	NGAL	3		
4	KIM1	4		
5	L-FABP1	5		
6	L-FABP2	6		
7	尿中バイオマーカーと疾患長期管理	7		
8	尿中バイオマーカーと医療連携	8		
9	CKDとバイオマーカー1	9		
10	CKDとバイオマーカー2	10		
11	CKDとバイオマーカー3	11		
12	AKIとバイオマーカー1	12		
13	AKIとバイオマーカー2	13		
14	AKIとバイオマーカー3	14		
15	バイオマーカーと医療経済	15		

講義担当者承認



学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(21)

講義コード		専攻分野	生活習慣病プロフェッショナル養成コース	
講義題目	蛋白質と免疫		必修/選択	選択
担当教員	加藤 智啓	担当教員連絡先	内線 3521	
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	免疫反応における蛋白質の役割について理解する。			
講義計画	担当教員による講義および学生によるテキストや学術論文の輪読、発表を行う。			
達成目標	1.免疫疾患および免疫異常を伴う病態における蛋白質の役割を説明できる。 2.蛋白質の「抗原性」と、病因との関連について理解する。			
教科書・参考書	免疫学キーノート(シュプリンガー・フェアラク東京)			
準備学習(予習・復習・時間)	・事前に参考資料を良く読んでおくこと。 1時間 ・配付資料の内容を確認しておくこと。			
成績評価法	出席と講義内での発表また受講態度による総合評価。			
講義内容				
前期(回)	内 容	(出席Ⓜ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓜ)
1	免疫系概論(1)		1	自己免疫概論
2	免疫系概論(2)		2	自己免疫疾患(1)
3	自然免疫と獲得免疫		3	自己免疫疾患(2)
4	補体系(1)		4	自己抗原と自己抗体(1)
5	補体系(2)		5	自己抗原と自己抗体(2)
6	急性期蛋白質		6	自己抗原と自己抗体(3)
7	サイトカイン概論(1)		7	腫瘍免疫概論
8	サイトカイン概論(2)		8	腫瘍抗原(1)
9	インターフェロン(1)		9	腫瘍抗原(2)
10	インターフェロン(2)		10	移植免疫概論
11	ケモカイン(1)		11	移植抗原(1)
12	ケモカイン(2)		12	移植抗原(2)
13	成長因子(1)		13	自己免疫疾患最新の話題(1)
14	成長因子(2)		14	自己免疫疾患最新の話題(2)
15	前期総合討論と発表		15	後期総合討論と発表

講義担当者承認

